

○第四次社会資本整備重点計画(平成27年9月18日閣議決定)のフォローアップについては、以下の方針で進める。

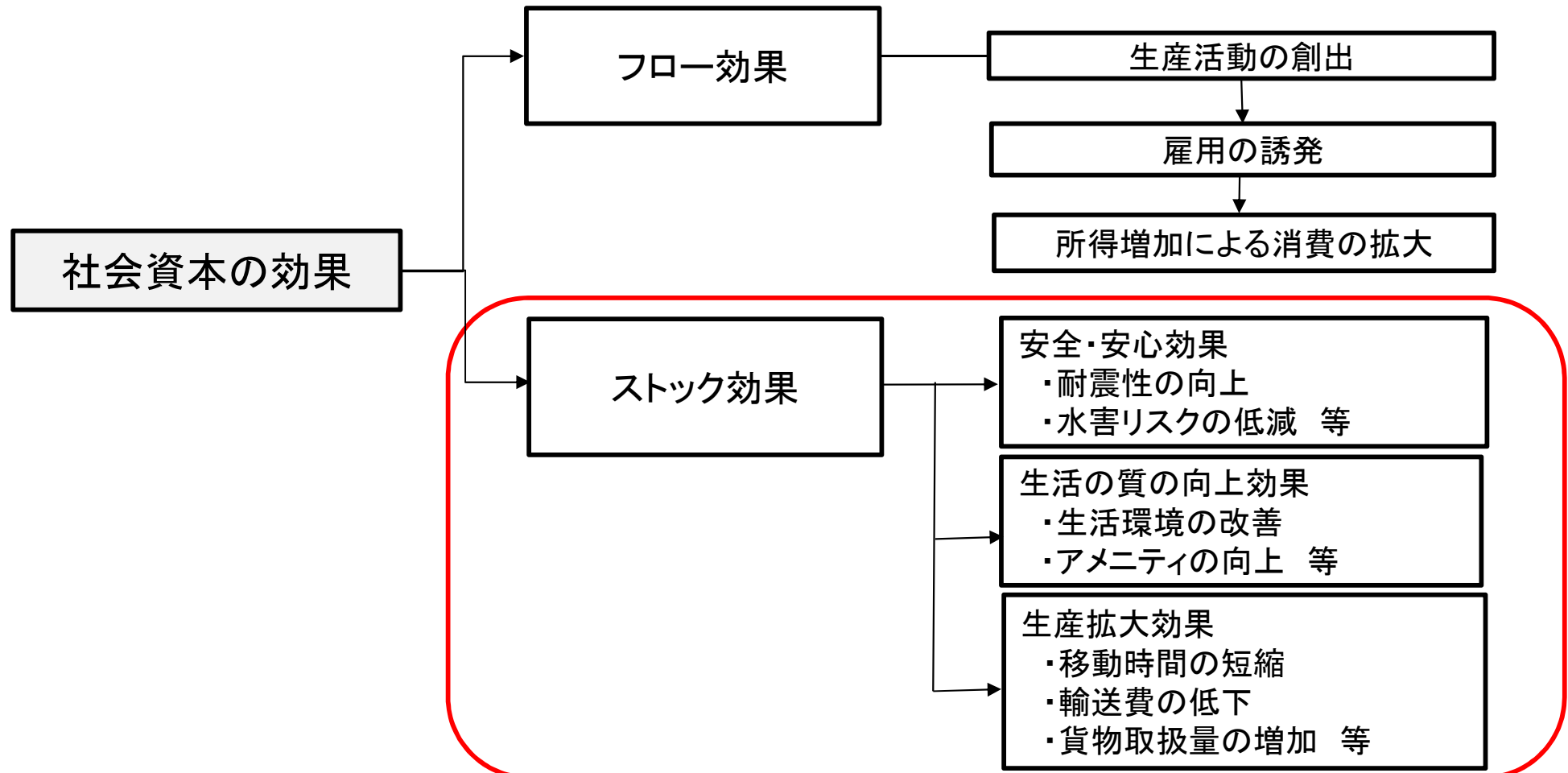
- 2年に1回実施するKPIの政策評価(次回は、平成29年公表予定)、毎年実施するKPIその他の指標の実績値の把握(次回は、平成28年公表予定)のいずれも、夏頃に公表を行うこととしており、公表結果を踏まえ、毎年秋頃に計画部会を開催し、社会資本整備重点計画のフォローアップを行う。
- また、毎年のフォローアップに際して、計画部会委員による現地調査を実施する。
- フォローアップに際して、目標の達成が思わしくない(目標通り進捗していない)場合は、原因分析・課題の抽出を行い、その解決にむけた政策の方向性・施策の改善策を明らかにする。
- 第四次社会資本整備重点計画の改善すべき点を整理して、今後の計画のあり方を検討する。

- 第四次社会資本整備重点計画に基づいた社会資本整備を進める上で、ストック効果を最大化するために必要な事業・施策を客観的な基準(カテゴリー)に整理することは、ストック効果についての関係者や国民の理解を深めることに資するとともに、ストック効果に関する更なる検討の基礎資料になると認識。
  
- また、計画部会や経済財政諮問会議経済・財政一体改革推進委員会等において、ストック効果の定量化に向けて努力すべきとの指摘を頂いているところ。社会資本整備重点計画においても「ストック効果の見える化の取組を推進する」こととしており、ストック効果の把握・評価手法を検討し、整理することは、ストック効果の見える化に有意義であると認識。
  
- そのため、以下の点について、検討を進める。
  - スtock効果を最大化するための事業・施策について、具体的事業を踏まえつつカテゴリーに整理  
(※防災・減災、老朽化対策等のストック効果については、企業立地等、経済成長が見込まれるものを対象)
  
  - スtock効果の総合化、計画中・事業中も含めたプロジェクトのストック効果の客観的・定量的な把握・評価手法について、簡便な手法も含めて幅広く検討

# (参考) 社会資本のストック効果

社会資本のストック効果は、以下の三つに分けられる。

- 安全・安心効果・・・地震、津波、洪水等への災害安全性を向上させ、安全・安心を確保する効果。
- 生活の質の向上効果・・・衛生状態の改善、生活アメニティの向上などの生活水準の向上に寄与し、生活の質を高める効果。
- 生産拡大効果・・・移動時間の短縮、輸送費の低下等によって経済活動の生産性を向上させ、経済成長をもたらす効果。



# (参考) 第四次社会資本整備重点計画 (抜粋)

## 第1章 社会資本整備をめぐる状況の変化と基本戦略の深化

### 2. 機能性・生産性を高める戦略的インフラマネジメントの構築

#### (1) 基本的な考え方

##### ① 社会資本のストック効果の最大化

社会資本のストック効果とは、整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果であり、国民生活における防災力の向上、生活環境の改善といった生活の質の向上をもたらす効果や、移動時間の短縮等により経済活動における効率性・生産性の向上をもたらす生産拡大効果がある。厳しい財政制約が見込まれる中、4つの構造的課題を乗り越えていくためには、優先度と時間軸を考慮した選択と集中の徹底を図りつつ、機能性・生産性を高める観点から、こうした社会資本のストック効果を最大限に発揮させるべく、従来にも増して重点的に取り組む戦略的な思考が求められる。

## 第3章 計画の実効性を確保する方策

### 第1節 多様な効果を勘案した公共事業評価等の実施

さらに、安全・安心の確保、生活の質の向上、民間投資の誘発や生産性の向上による生産拡大といった社会資本のストック効果の発現状況について、多面的な効果を踏まえつつ、事業完了後における地域の即地的な社会経済状況の変化を継続的に把握・公表するなど、ストック効果の見える化の取組を推進する。